

【中高生・市民・事業者アンケート 結果概要】

1. 調査概要

1.1. 調査目的

本調査は、「第3次岡山市環境基本計画（仮称）」及び「生物多様性おかやまプラン（仮称）」の策定にあたり、市民や事業者の皆様のご意見やご要望をできるだけ計画に反映させる目的で実施したものである。

1.2. 調査対象

調査の種類	対象	
中高生アンケート	中学生	高松中学校 : 149名 建部中学校 : 26名 瀬戸中学校 : 121名 光南台中学校 : 39名 灘崎中学校 : 127名 (計 462名)
	高校生	岡山城東高校 : 114名 高松農業高校 : 16名 (計 130名)
市民アンケート	市内在住者	20代以上の 1,500名
事業者アンケート	市内事業者	市のグリーンカンパニー登録事業者の 300社
		計 2,392名・社

1.3. 調査方法

調査の種類	調査方法
中高生アンケート	Google フォームを用いたオンラインによる周知・回答
市民アンケート	郵送による配付・回収
事業者アンケート	

1.4. 調査期間

調査の種類	対象	調査期間
中高生アンケート	中学生	令和6年6月27日～7月19日
	高校生	令和6年7月6日～7月19日
市民アンケート	市内在住者	令和6年7月2日（発送日）～8月26日（到着分）
事業者アンケート	市内事業者	

1.5. 回収結果

調査の種類	対象	有効回収数 (件)		有効回収率 (%)	
中高生アンケート	中学生	429	524	92.9	88.5
	高校生	95		73.1	
市民アンケート	市内在住者	419		27.9	
事業者アンケート	市内事業者	141		47.0	

1.6. 分析・表示について

アンケート調査結果の分析・表示に係る留意点を、以下に示す。

- ・ 比率は性別、年齢、地域など種別毎にみた場合の内訳であり、すべて百分率 (%) で表示している。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計は 100 とならない場合がある。比率が 0.05%未満の場合は 0.0%と表示してある。
- ・ 複数回答を許している設問（以下「回答種別」参照）があり、その場合回答の合計数が回答者数を超えることがある。また、回答者数を基数として比率を算出しているため、合計が 100%を超えることがある。

1.7. 回答種別

SA (Single Answer : 単回答)

- ・ 複数の選択肢から、1 つだけ選んで回答する形式。

LA (Limited Answer : 複数回答<制限あり>)

- ・ 複数の選択肢から、制限された数以内で 1 つ以上を選んで回答する形式。例えば 2LA であれば、選択肢の中から 2 つ以内で回答。

MA (Multiple Answer : 複数回答<制限なし>)

- ・ 複数の選択肢から、あてはまるもの全てを選んで回答する形式。

FA (Free Answer : 自由回答)

- ・ 選択肢を設けず、自由に回答する形式。

2. 結果概要

《中高生》

- 地球温暖化の影響について、「熱中症などの健康リスクの増加」が突出して多い（問 11）
- 地球温暖化対策の認知度は高く、重要性の認識も高い（問 11～15）が、対策の有効性の具体的なイメージについては「何となく持っている」の回答が 6 割を超えた（問 16）。
- 岡山市が「ゼロカーボンシティ」を目指していることについては 8 割以上が認知していなかった（問 12）。
- 「プラスチックごみによる海の汚染」について、生物への影響を問題視する回答が多かった（問 17）。
- サークュラーエコノミーについては「わからない」が 4 割近くとなり、十分な理解が得られていなかった。（問 18）。

《市民》

- 家庭で日ごろ「環境保全または環境によい行動」に必ずまたは時々取り組んでいるのは 8 割を超え（問 9.2）、実際には「マイバックの持参」、「ごみの分別、ポイ捨てをしない」「節電、節水」など多岐にわたっていた（問 9.1）。
- 地球温暖化対策の重要性の認識は高く（問 10.1）、生活を豊かにするという認識の回答が 4 割ある一方で、生活の質を脅かすとの回答も 3 割地近くとなった（質問 10.2）。
- 地球温暖化対策に関して、現在取り組んでいる対策は、「ごみの分別や排出抑制」や「省エネルギー機器への買い替え」が多く（問 10.3）、今後積極的に取り組む必要がある対策についても同様な傾向であった（問 10.4）。
- 岡山市の環境保全に関する取組で重要と感じているのは、「歩道の安全性、快適性」、「災害に強いまち」、「ごみの減量、リサイクル」、「緑や公園の整備」等が多かった（問 13）
- 行政に対して環境保全の取組に関わる際に望むことは、「子どもたちへの体験学習や環境教育の推進」が 5 割を超えた（問 14）

《事業者》

- 日ごろ「環境保全または環境によい行動」として、節電、省エネ、節水、エコドライブの取組が多く、一方、緑化活動などへの取組は少なかった（問 9）。
- 省エネルギー、再生可能エネルギー関連の機器の利用が多かったのは、多い順に LED 照明（79%）、ハイブリッド自動車（48%）、省エネ型冷暖房機（43%）、太陽光発電設備（25%）、省エネ型オフィス機器（23%）となり、事業活動に使用する省エネタイプの機器、デマンド監視装置、蓄電池、太陽熱温水器の設置、蓄電池、BEMS、燃料電池自動車の利用は多くても 18%以下と少なかった。

➡いずれも導入のきっかけは、「光熱費の負担軽減」を挙げており、自動車関連については「CO₂削減」を挙げていた。

➡一方、導入しない理由はいずれも「導入負担が大きい」が挙げられた。ただし、省エネ型オフィス機器、事業活動に使用する省エネ型オフィス機器、事業活動に使用する省エネタイプの機器、デマンド監視装置、蓄電池、BEMS、燃料電池自動車については、利用状況がわからないという回答も比較的多かった。(問 10)

- 気候変動への取組については、適応策を実施しているのは、30%~69%で、何らかの適応策には取り組んでいることが明らかになった(問 13)。
- カーボンニュートラルについて、対応していない事業所が約 6 割を占めた(問 14.4)。
- サーキュラーエコノミーについては「聞いたことがない」が 7 割近くとなり、十分な理解が得られていなかった(問 15.1)。
- 岡山市の環境政策で重要と感じているのは、「空き家対策」、「災害に強いまち」、「歩道の安全性、快適性」、「水辺の安全」、「ごみの清掃、美化」、「緑や公園の整備」等が多かった、一方、「環境教育に関する取組」や「再生可能エネルギーの利用」についての重要性の認識は低かった(問 16)

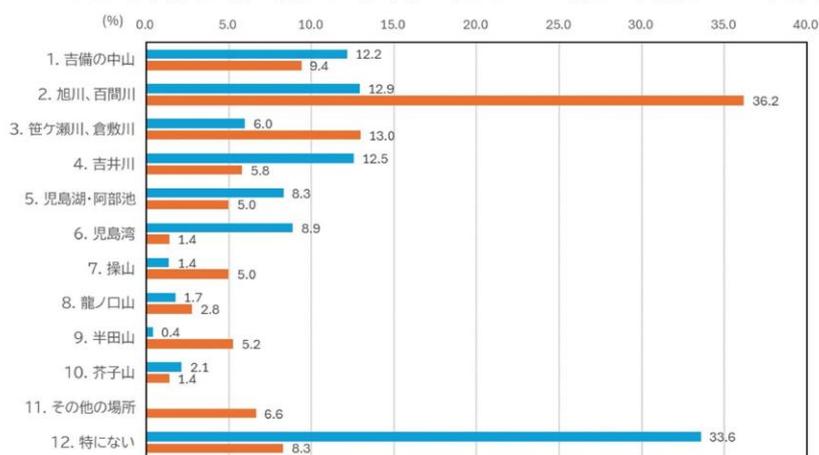
3. 生物多様性保全関連の結果（第2回自然環境保全審議会資料より抜粋）

生物多様性保全関連の結果については、「(仮称) 生物多様性おかやまプラン」の検討を進めている自然環境保全審議会において報告説明をおこなっているため、その報告資料を以下に示す。

(仮称) 生物多様性おかやまプランの策定について

(1) 岡山市の身近な自然について（中高生・市民）

- 中高生では「特にない」の33.6%を除き「旭川、百間川」が12.9%で最多
- 市民でも36.2%で最も多い
- 「旭川、百間川」が幅広い世代の市民から身近な自然として認識されている

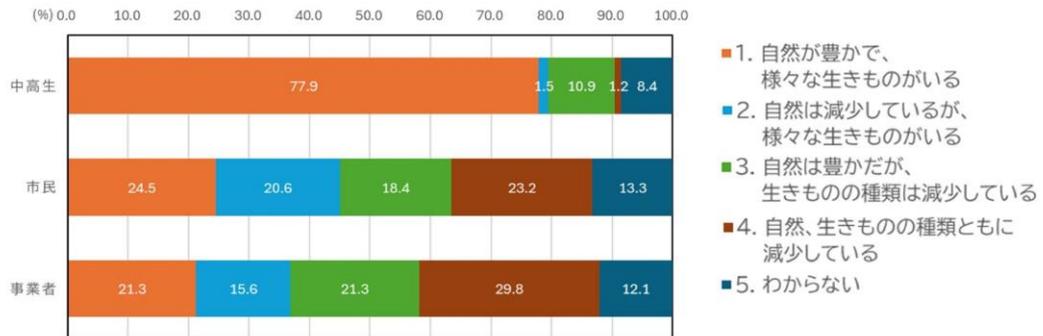


Design: Suzuma Yehitami (Chugoku Design College)



(2) 岡山市の自然について (中高生・市民・事業者)

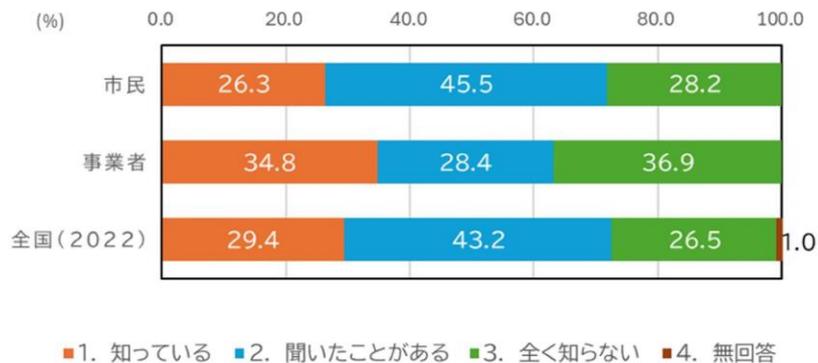
- ・ 中高生は「自然が豊かで、様々な生きものがいる」と感じている人が多いが、身近な岡山の自然については「特にない」という回答が多いことから、漠然と自然の豊かさを感じてはいるが、身近な自然との接点は少ない
- ・ 市民及び事業者は5つの選択肢を占める割合が分散



Design: Susuma Uehumi (Chugoku Design College)

(3) 生物多様性の認知度 (市民・事業者)

- ・ 市民と事業者とも「知っている」あるいは「聞いたことがある」が占める割合は全体の約6割～7割と同程度
- ・ 全国と比べると、市民では「知っている」と答えた割合が低いものの、事業者では高い
- ・ 市民でも「聞いたことがある」を含めると、全国での回答割合と同程度

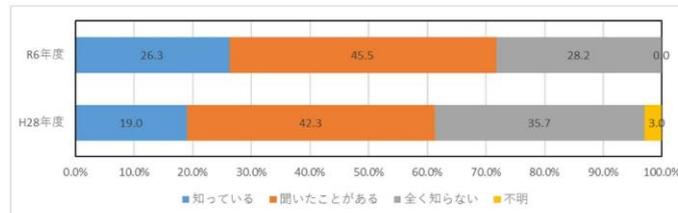


Design: Susuma Uehumi (Chugoku Design College)

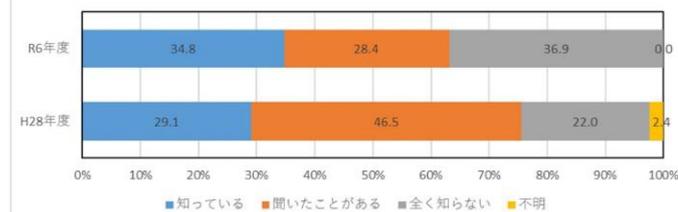
(4) 「生物多様性」の言葉の意味の認知度 (市民・事業者、過去との比較)

- 市民:「知っている」及び「聞いたことがある」の割合がいずれも、R6>H28
⇒「生物多様性」の全体としての認知度は増加している。
- 事業者:「知っている」がR6>H28;「聞いたことがある」R6<H28
⇒「生物多様性」の全体としての認知度は減少
※事業者の属性割合がH28とR6で異なることに起因している可能性もあり

<市民>



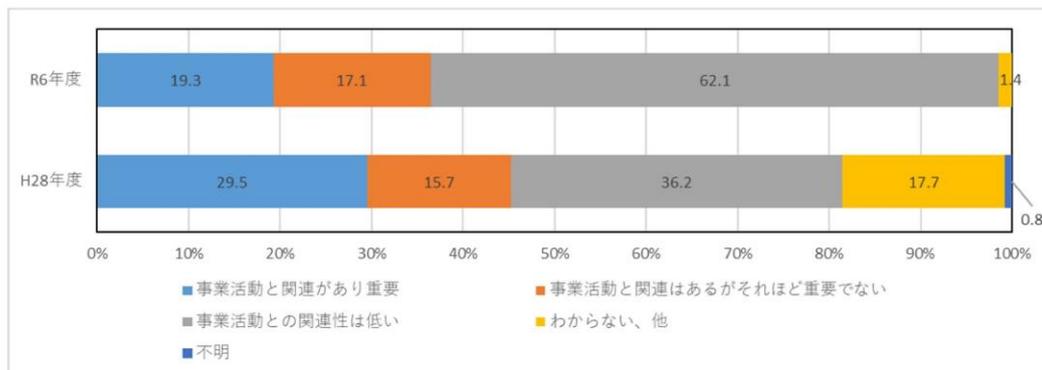
<事業者>



Design: Susuma Uehiumi (Chugoku Design College)

(5) 事業活動と生物多様性保全の取組との関連性 (事業者、過去との比較)

- R6で「事業活動との関連性が低い」が62.1%を占め、H28から増加
- 「事業活動と関連があり重要」がR6で減少
- 「事業活動と生物多様性には関連がある」という認識が低下
⇒ (回答した事業者の属性の割合がH28とR6で異なることに起因している可能性がある)

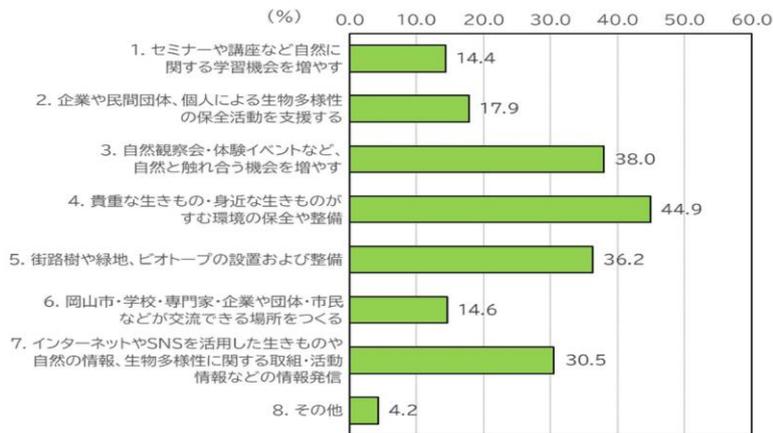


Design: Susuma Uehiumi (Chugoku Design College)



(6) 岡山市に力を入れてほしい生物多様性の取組 (市民)

- ・「貴重な生きもの・身近な生きものがすむ環境の保全」、「自然観察会・体験イベントなど、自然と触れ合う機会を増やす」などが多い
- ・「インターネットやSNSを活用した生きものや自然の情報、生物多様性に関する取組・活動情報などの情報発信」も多い

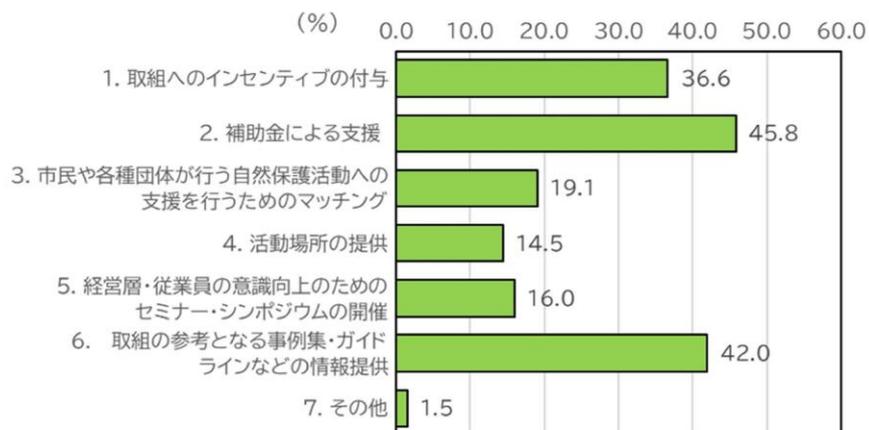


Design: Susuma Uehumi (Chugoku Design College)



(7) 岡山市に実施して欲しい生物多様性の施策 (事業者)

- ・「補助金による支援」(45.8%)、「取組の参考となる事例集・ガイドラインなどの情報提供」(42.0%)、「取組へのインセンティブの付与」(36.6%) が多い



Design: Susuma Uehumi (Chugoku Design College)



以上